

### 2021年度に向けた教育研究目標

責任者	言語コミュニケーション文化研究科委員長	作成部局	言語コミュニケーション文化研究科
-----	---------------------	------	------------------

<b>【A票：教育研究目標1】</b>	
(タイトル) 4領域の垣根を低くするカリキュラム改編	
(狙い内容) 前期課程では、言語科学領域、言語文化学領域、言語教育学領域、日本語教育学領域のうちから一つの研究領域を選ぶが、言語コミュニケーション文化を横断的・総合的な研究を可能にするために、現行よりさらに自由度を高めた柔軟なカリキュラムに改編する。	

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**  
 学生の研究テーマが所属領域のみの内容に偏らずに、横断的・総合的に研究が可能なカリキュラムを実現することにより、多種多様な研究が可能となる。

<b>2. 達成度評価</b>	
評価指標	学生のカリキュラム(科目履修)に関する満足度 ※修了者アンケートにて聴取予定
評価尺度	A：修了生の8割が「満足」している。 B：修了生の6割が「満足」している。 C：修了生の4割が「満足」している。 D：修了生の2割以下しか「満足」していない。

<b>3. 年度毎の目標値</b>							
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点	B 想定より現カリキュラム への満足度が高かった	B 2015年度と同様と思わ れる	(修了生が現カリキュラム 履修者のため、参考値とす る)	B 修了生の6割が「満 足」している	A 修了生の8割が「満 足」している	A 修了生の8割が「満 足」している	A 修了生の8割が「満 足」している
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	B	A	見込み	A			
見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	想定より現カリキュラム への満足度が高かった	想定より現カリキュラム への満足度が高かった 大変満足：約48% やや満足：約48%		2016年度と同様 と思われる			

**【2017年度の進捗状況について】**  
 2017年度にカリキュラム改編を実施するため、旧カリキュラム修了生(2017年度まで)の評価尺度については参考値とする。

### 2017年度の実行状況の確認

2017年度の実行状況は、当初の目標どおりに進んでいるか？ →  はい ・  いいえ

<p><b>&lt;評価専門委員・第三者評価結果&gt; 2017年12月22日公示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>満足度は順調に推移しています。(A)</li> <li>目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(B)</li> <li>学生満足度を高めるための具体的な方策を新たな行動計画として立案することが望まれます。(C)</li> <li>引き続き、満足度の高いカリキュラムを期待します。(D)</li> <li>今後の評価指標として、学生の満足度だけでなく、具体的に領域を跨いだ柔軟な履修実態があるのかを評価することが期待されます。(E)</li> <li>計画通りに進捗していると評価できる。ただしアンケート結果については、サンプル数(n)を記載してほしい。(G)</li> <li>順調です。目標設定の上方修正等、改善が期待されます。(H)</li> <li>概ね目標が達成されたようですので、新たな目標の策定についての検討が期待されます。(I)</li> </ul>
---

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

英語教員対象1年制修士学位コースの設置

(狙い内容)

すでに実績を持つ英語教員が、短期間で高度な専門的研究を行い、同時に教育能力のさらなる向上を達成するために、英語教員を対象に1年で修士学位を取得可能なコースを設置する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

2017年度を目標に「英語教員対象1年制修士学位コース」を設置し、毎年1名以上の修了者がいる。

**2. 達成度評価**

<b>評価指標</b>	(当該コース設置後)毎年1名以上の修了者がいること	<b>評価尺度</b>	A : 1名以上の修了者がいる B : 1名以上の入学者がいる C : 1名以上の受験者がいる D : 受験者がいない
-------------	---------------------------	-------------	--

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		D コース概要検討段階の ため	D 2017年度入試では志願 者は0だった。	C (1名以上の受験者がいる)	C (1名以上の合格者 がいる)	B (1名以上の入学者 がいる)	B (1名以上の入学者 がいる)	A (1名以上の修了者 がいる)
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	D	D	見込み	D			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	コース概要検討段階の ため	2017年度入試では志願 者は0だった。	見込み 2017年10月1日時 点での問い合わせ は10件未満であ る				

**【2017年度の進捗状況について】**

研究科ホームページ上での広報を強化した。本コースに関する既存の公開情報を精査した上で、説明の内容を増やし、閲覧者にとって分かりやすい記述とした。

**2017年度 of 取組み状況の確認**

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由: 設置が完了し、コースに関する問い合わせが入るようになった。一方で出願に結びついていない現状から、本コースと本コースに関心がある者のニーズが必ずしも合致していない可能性が考えられる。
- ②今後必要な取組み: 本コースに対するニーズを調査し、出願に結びつかない要因を探る。

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示**

- ・1年制修士学位コースの入学者確保が期待されます。(A)
- ・英語教員対象1年制修士学位コースの設置は高く評価できますが、志願者確保のため、広報など具体的な方策を新たな行動計画として立案することが望まれます。(C)
- ・今年度も受験者が0名だったことは残念です。よく課題を整理した上で取組みを進めることを期待します。(D)
- ・残念ながら現状は厳しいようですが、優れた取組みだと考えますので、今後の進展を期待します。(E)
- ・1年制修士学位コースの入学生の確保が望まれます。(F)
- ・本コースに関する問い合わせ内容(10件未満)を精査するとともに、早急にニーズを調査し、改善プランを作成することが必要だと思われます。(G)
- ・昨年度も同様の指摘がありましたが、今年度も志願者がいないことについて具体的な方策が求められます。さらに行動計画2において問い合わせ自体10件未満とのことですので、目標設定も含めた抜本的な改善が求められます。なお行動計画1については決定がなされましたので、次年度以降別途新たな行動計画の策定を通じて目標推進へつなげてください。(H)
- ・近隣の教育委員会向けの広報等を早急に始められることを期待します。(I)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)  
前期課程入試制度のあり方の検討

(狙い内容)  
前期課程の新入生の人数およびバックグラウンドを精査し、入学定員を充足できない状況が続く場合、入試制度のあり方を検討し、入試制度改革を実行する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

入学定員(30名)を充足している。

**2. 達成度評価**

<b>評価指標</b>	入学定員の充足状況	<b>評価尺度</b>	A : 入学者数が30名以上 B : 入学者数が25名以上 C : 入学者数が20名以上 D : 入学者数が20名未満
-------------	-----------	-------------	--

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
<b>2016年度 自己点検・評価時 点</b>		<b>B</b> 入学者数が25名だった	<b>D</b> 入学者数が18名だった	(入学者の質量精査)	(入学者の質量精査)	(入試制度のあり方検討)	<b>A</b> 30名 (場合により、入試制度改革実施)	<b>A</b> 30名
	<b>2017年度 進捗状況 &amp; 今後の 目標値</b>	<b>評価 尺度: A~D</b>	<b>B</b>	<b>D</b>	<b>実績</b>	<b>C</b>		
<b>見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)</b>		入学者数が25名だった	入学者数が18名だった	入学者数が24名 だった				

**【2017年度の進捗状況について】**

入学者数は24名となり、前年度比約33%増となった。なお当該目標は、2017年度実施の各施策(カリキュラム改編、1年制修士学位コース設置等)を実行し、実績を精査した上で、必要があれば、2019年度に検討を開始するものとなっている

**2017年度の取組み状況の確認**

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→  はい ・  いいえ

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示**

- ・ 計画どおりの入学者数の確保が期待されます。(A)
- ・ 入学定員の充足状況を改善するための具体的な方策を新たな行動計画として立案することが望まれます。(C)
- ・ 引き続き、各種講演会・セミナー等の機会を活用して入学者確保策を継続することを期待しています。(D)
- ・ 着実な進捗が期待されます。(E)
- ・ 定員充足率が向上しており、引き続き改善策を実施していくことが望まれます。(F)
- ・ 進捗状況には問題がないと思われるが、2015年度から2016年度にかけて減少し、2017年度に増加した原因の分析をしておく必要があるように思われる。(G)
- ・ 数値目標は適切です。進捗も順調です。一方で内容については、結果の良し悪しに関わらず具体的な原因分析を通じて最終的な目標達成に向けての積極的な取り組みを期待しています。(H)